

専任教員の教育・研究業績

| 所属 | 職名 | 氏名 | 大学院における研究指導担当資格の有無 | 有 |
|--|----|------------------|---|---|
| 教育学部 | 講師 | 栗田 昇平 | | |
| I 教育活動 | | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年月日 (期間) | 概要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) | | | | |
| ICT機器を用いた体育実技の実践 | | 平成29年4月～平成31年3月 | Ipadを用いて、学生の試技を撮影し、視覚的にフィードバックすることを行った。また、実技テストとして、Ipadで組み合わせ技を撮影し、それを評価するという活動を行った。 授業名：「器械運動 (体づくり運動を含む)」 (於：神戸医療福祉大学) | |
| 実践指導力を身に付けさせる教育方法 | | 平成31年4月～現在に至る | 授業計画の立案から始め、学生が教師役、生徒役に分かれ、計画した授業を実践する活動を行った。模擬授業後には、反省会を開き、教師側が設定した観点について、検討を行い、学生間で意見交流をさせたり考えを発表させたりした。 授業名：「保健体育科教育法Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」・「教育実習事前・事後指導」 (於：聖カタリナ大学)、「教科教育法 (体育)」 (於：大阪体育大学) | |
| 地域資源を用いた授業実践 | | 平成31年4月～令和3年3月 | 授業で学んだ理論に基づいて学生に幼稚園児を対象に運動計画を立てさせ、その計画に基づいて、隣接されている附属幼稚園の運動指導を行う活動を行った。事前に幼稚園の教諭方と協働し、日程、場所、進行のさせ方、学習環境を整える等の調整を行った。 授業名：「キッズスポーツ指導実践」 (於：キッズスポーツ指導実践) | |
| 学年間の交流による実践コミュニティの形成を企図した授業実践 | | 平成31年4月～令和3年3月 | 2年から4年次までの教職課程履修者を集め「研究授業大会」を設定し、実践コミュニティの形成を意図した教育実践を展開した。3年次の学生が教師役、2年次が生徒役、教育実習を終えた4年次はスーパーバイザーとしてそれぞれの役割の中で、実践を発表したり、意見を交換をしたりすることを行った。 授業名：「教育実習事前・事後指導」 (於：聖カタリナ大学) | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | | |
| 福岡大学「生涯スポーツ演習Ⅰ」共通講義用スライドの作成 | | 平成29年4月 | 福岡大学の生涯スポーツ演習Ⅰは、全学1年生を対象に行われる授業であり、その質の向上を意図して、学内で統一された教科書を作成し、その教科書に対応した講義スライドを統一して用いている。福岡大学スポーツ科学部の依頼により作成した。担当箇所：「社会とスポーツ」 | |
| 聖カタリナ大学健康スポーツ学科テキスト「大学生のための健康・スポーツの基礎知識」 | | 令和2年3月 | 聖カタリナ大学の生涯スポーツ関連の授業で使用される共通のテキストの「大学生のための健康・スポーツの基礎知識」の第12講「児童期の運動について」及び第13講「学校における体育の役割」の執筆に携わった。 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | | |
| 中国四国小学校体育研究大会「球技の部」指導助言者として講演 | | 令和元年11月 | 中国四国小学校体育研究大会の球技の部において、ベースボール型授業の指導助言者として登壇した。指導助言を担当した授業は、「スローイングベースボール」を教材とした授業実践であり、主に打つ動作を投げる動作にすることによって派生するメットについて、来席された先生方に紹介した。来席された方々は、中国四国地区の小学校教員が主であった。 | |
| 橋本市体育主任者研修会講演 | | 令和3年7月 | 橋本市教育委員会からの依頼で、体育主任者研修会の講師を担当した。講演テーマは、「体育授業における対話的な授業づくり」であった。 | |
| 和歌山市立今福小学校体育授業研究会講師 | | 令和3年9月 | 和歌山市立今福小学校において、小学校教諭を対象にボール運動ゴール型領域のアルティメットの授業について、授業を参観後、指導助言及び講演を行った。 | |
| 熊取町体育部会研修会「投運動」講師 | | 令和3年11月 | 熊取町体育研究部会の依頼で、講師として、投運動の教材の紹介を行った。参加者は熊取町立小・中学校の教員であり、参加者とともに教材の実践を行った。 | |
| 貝塚市教育委員会体育授業研究会「楽しく学ぶ体育学習をめざして～ICTを活用して～」 | | 令和4年11月 | 貝塚市立教育委員会の依頼で、市の体育授業研究会の講師を務めた。小学校5年生を対象としたマット運動の授業を参観後、体育授業とICTの活用について講演を行った。 | |
| 泉佐野市立佐野台小学校体育授業校内研修会講師 | | 令和3年8月 令和4年8月 | 泉佐野市立佐野台小学校において、2年間にわたり校内研修会の講師を務めている。1回目は「対話的な体育授業実践」について、2回目は「ゴール型領域としてのアルティメットの特性と利点」について講演した。 | |
| 令和4年度阪神地区体育授業研究会「仲間と高めあい、できる喜びを味わえる体育学習～子どもが夢中になってとりくむ姿を目指して～」指導助言者として講演 | | 令和4年11月 | 川西市教育委員会からの依頼で、令和4年度阪神地区体育授業研究会に指導助言者として登壇した。事前に体育授業を参観させていただき、指導助言等を行った他、当日、講師として研究テーマについて講演させていただいた。 | |

| | | |
|--------------------------|----------------|---|
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | |
| 北条スポーツセンター運動指導員（聖カタリナ大学） | 平成31年4月～令和3年3月 | 松山市北条にある北条スポーツセンターにおいて、毎週金曜17時から19時まで、小学校1年生から6年生を対象に、コーディネーション運動を中心とした運動能力開発プログラムを行っていた。 |
| 聖カタリナ幼稚園運動指導員（聖カタリナ大学） | 平成31年4月～令和3年4月 | 大学に隣接している幼稚園において、隔週で1時間ほど運動遊びを通じた基本的な動きづくりの活動を行っている。また、ゼミ学生を参加させる等、学生の学びの場にもなるように工夫していた。 |
| 泉佐野市立佐野台小学校体育授業指導支援 | 令和4年4月～現在に至る | 泉佐野市立佐野台小学校の体育授業を年に数回、参観させていただき、情報共有や体育指導について相談させていただいている。 |
| 九度山町立河根小中学校出前授業 | 令和4年12月 | 九度山町立河根小中学校において、出張講座として、テニピンの授業を行った。対象者は小学校5、6年生と中学校1、2年生であった。 |

II 研究活動

著書（単著）

| 書名 | 著者 | 総頁数 | 発行所 | 発行地 | 発行年月 |
|----|----|-----|-----|-----|------|
| | | | | | |

著書（共著・分担執筆）

| 題目／書名 | 著者／編者 | 初（始）頁～終頁 | 発行所 | 発行地 | 発行年月 |
|--|---|----------|------|-----|--------|
| 児童期の運動について／大学生のための健康・スポーツ基礎知識 | 栗田昇平ほか／青木・曾我部編 | 45頁～48頁 | 創風社 | 東京都 | 令和2年3月 |
| 学校における体育の役割／大学生のための健康・スポーツ基礎知識 | 栗田昇平ほか／青木・曾我部編 | 49頁～53頁 | 創風社 | 東京都 | 令和2年3月 |
| ゲーム中心の授業における教師の役割／「ゲームデザイナーとしての教師」によるゲーム・ボール運動・球技の指導 | Sheehy, D. & Bohler, H. (栗田昇平訳)／鈴木・リチャードソン編 | 34項～42項 | 創文企画 | 東京都 | 令和6年6月 |
| ゲームデザイナーとしての教師／「ゲームデザイナーとしての教師」によるゲーム・ボール運動・球技の指導 | Hopper, T. (栗田昇平訳)／鈴木・リチャードソン編 | 43項～52項 | 創文企画 | 東京都 | 令和6年6月 |
| ゲーム指導の教師行動／「ゲームデザイナーとしての教師」によるゲーム・ボール運動・球技の指導 | 栗田昇平／鈴木・リチャードソン編 | 53項～60項 | 創文企画 | 東京都 | 令和6年6月 |

原著論文（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。）

| 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初（始）頁～終頁 | 発行年月 |
|---|-------------------------|---------------------------------------|---------|-----------|----------|
| 体育授業における協同学習の効果的な適用を促す授業手続き：協同学習の代表的な4つのアプローチの統合を通じて | 栗田昇平 | 神戸医療福祉大学紀要 | 第19巻 | 43頁～55頁 | 平成30年12月 |
| 教育実習の多様性と実習生の学びの過程－実習生の体育授業観及び体育教師観に着目して－ | 栗田昇平 | 聖カタリナ大学聖カタリナ短期大学部研究紀要 | 第32巻 | 114頁～130頁 | 令和2年2月 |
| アメリカのナショナルスタンダードにみるダンス教育のシークエンスの検討 | 大西祐司、栗田昇平、岡出美則 | スポーツ教育学研究 | 第40巻 | 43頁～55頁 | 令和2年5月 |
| Influence of social distancing during the COVID-19 pandemic on physical activity in children: A scoping review of the literature. | Yomoda, K and Kurita, S | Journal of Exercise Science & Fitness | 第19巻第3号 | 193頁～203頁 | 令和3年4月 |
| 小学校体育授業における協同学習モデルの適用過程：情意・社会的能力の向上を意図した高学年表現運動の実践を対象として | 栗田昇平・大西祐司 | 体育学研究 | 第68巻 | 577項～596項 | 令和5年12月 |

| 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初（始）頁～終頁 | 発行年月 |
|----|----|----|---|----------|------|
| | | | | | |

その他（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）

| 区分 | 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初（始）頁～終頁 | 発行年月 |
|-------|---|------------------|-------------|-----|----------|--------|
| 研究ノート | 球技・ゴール型ゲームにおける戦術的なプレイの発生数の差異：バスケットボールとサッカーを比較して | 共 浜上洋平、栗田昇平ほか | 大阪体育大学教育学研究 | 第6巻 | 97頁～104頁 | 令和4年2月 |
| 研究ノート | 教育実習における教師としての自信の変容過程：教育実習生4名のナラティブから | 共 栗田昇平、浜上洋平 | 大阪体育大学教育学研究 | 第6巻 | 65頁～83頁 | 令和4年2月 |
| 実践報告 | 小学校教員養成段階の大学生における戦術学習モデルの学習可能性：講義形式と実技形式の2つの授業形態の運用を通して | 単 栗田昇平 | 大阪体育大学教育学研究 | 第8巻 | 85頁～108頁 | 令和6年3月 |

| 学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入） | | | | | | |
|---|---|--|--|-----------------|----------------------|------|
| 区分 | 年月 | 学会名 | 演題名 | 場所 | 発表者名 | |
| 国内(シンポ) | 令和元年6月 | 日本体育科教育学会第23回大会 | ダンス授業における協同学習モデルの適用の試み—情意・社会的な学習成果に着目して— | 沖縄大学 | 大西祐司、栗田昇平 | |
| 国内(一般演題) | 令和3年11月 | 日本スポーツ教育学会第41回大会 | 小学校高学年体育における協同学習モデルの適用過程—情意・社会的領域に焦点を当てた表現運動の実践— | 福岡教育大学 | 栗田昇平、大西祐司、四方田健二、浜上洋平 | |
| 国内(シンポ) | 令和6年6月 | 日本体育科教育学会第28回大会 | スポーツ教育モデルを適用したダンス授業と体育祭との有機的連関の構築 | 立命館大学 | 大西祐司、栗田昇平、和田博史、安達詩穂 | |
| 科学研究費等の取得状況 | | | | | | |
| 科学研究費/その他の助成金/外部資金 | | | | | | |
| 区分 | 種類 | 題目 | 代表・分担の別 | 期間 | 助成額（期間内の総額） | |
| 科学研究費 | 研究活動スタート支援 | 体育授業における効果的な話し合い活動の在り方 | 代表 | 平成27年9月～平成29年3月 | 2,860千円 | |
| 科学研究費 | 若手研究 | 協同学習モデルを適用させた情意・社会的領域の学習成果に対応したダンス授業の在り方 | 代表 | 平成31年4月～令和5年3月 | 2,470千円 | |
| 科学研究費 | 基盤研究C | 協同学習モデルの適用が体育授業における授業者の意味の生成過程に与える影響 | 代表 | 令和5年4月～令和10年3月 | 3,380千円 | |
| 科学研究費 | 基盤研究C | スポーツ教育モデルを適用したダンス授業と体育祭との有機的連関の構築 | 分担 | 令和6年4月～令和10年3月 | 3,640千円 | |
| 特許 | | | | | | |
| 特許名称 | 発明者/出願人 | 出願日/出願番号 | 公開番号 | 取得した場合 ⇒ | 公告・特許番号 | 国 |
| | | | | | | |
| Ⅲ 加入学会および社会における活動 | | | | | | |
| 期 間 | 内 容 | | | | | |
| 加入学会 | | | | | | |
| 平成23年4月～現在に至る | 日本体育学会 体育科教育学専門分科会 学会員 | | | | | |
| 平成23年4月～現在に至る | 日本スポーツ教育学会 学会員 | | | | | |
| 平成26年4月～平成27年3月 | 日本スポーツ教育学会編集幹事 | | | | | |
| 平成29年4月～現在に至る | 日本武道学会 学会員 | | | | | |
| 平成29年4月～現在に至る | 日本教科教育学会 学会員 | | | | | |
| 社会的活動 | | | | | | |
| 令和元年11月 | 中国四国小学校体育研究大会「球技の部」講師 | | | | | |
| 令和3年4月～現在に至る | 泉佐野市立佐野台小学校 体育科校内研修会講師 | | | | | |
| 令和4年11月 | 令和4年度阪神地区体育授業研究会 講師 | | | | | |
| Ⅳ 管理活動 | | | | | | |
| 期 間 | 内 容 | | | | | |
| 委員会活動 | | | | | | |
| 令和3年4月～令和5年3月 | 教育学部 教務委員会 | | | | | |
| 令和3年4月～令和5年3月 | 教育学部 教職課程委員会 | | | | | |
| 令和3年4月～令和5年3月 | 全学教職課程委員会 | | | | | |
| 令和4年4月～令和5年3月 | 教育学部 FD委員会 | | | | | |
| 令和5年4月～現在に至る | 教育学部 研究委員会 | | | | | |
| 令和5年4月～現在に至る | 教育学部 自己点検評価委員会 | | | | | |
| 特別プロジェクト活動 | | | | | | |
| | | | | | | |
| Ⅴ クラブ活動の指導業績 | | | | | | |
| 1. 指導クラブ名 | 幼児体育研究会 | 部 | 2. 役職 | 顧問 令和5年度～現在 | 3. 部員数 | 80 人 |
| 4. 現場指導の頻度 | ③ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない | | | | | |
| 5. 合宿指導 | 年間合宿回数： | 回 | 延べ日数： | 日 | | |

| | | | | |
|--|--------|--|-----|-----|
| 6. クラブの競技力向上への取り組み | 選択 | ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない | | |
| 7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み | 選択 | ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない | | |
| 8. 部員の就職指導への取り組み | 選択 | ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない | | |
| 9. 年間の引率公式大会名 | 大会名 | | 期 間 | 場 所 |
| | | | | |
| 10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。) | | | | |
| 開 催 期 間 | 大 会 名 | | 成 績 | 場 所 |
| | | | | |
| VI 賞罰 (職務に関する賞罰) | | | | |
| 年 月 | 受賞等機関名 | 内 容 | | 備 考 |
| | | | | |